

δαίμόνιον

ダイモニオン

知っておきたいキリスト教のことば (6)

悪霊 あくれい

だいぶ前に聖書を朗読した時に、「悪霊」と書いてあるところを「あくりょう」と大きな声で読んだところ、「最近教会に行き始めたの？」と言われたことがあります。広辞苑の見出しを見ても、「悪霊」の読み方は「あくりょう」で、「あくれい」は別の読み方として紹介されているのに、なぜかキリスト教では「あくれい」と読むのが一般的です。事実、漢字にルビが打たれている様々な聖書を調べてみましたが、わたしが持っている範囲ではすべて「あくれい」と書かれていました。

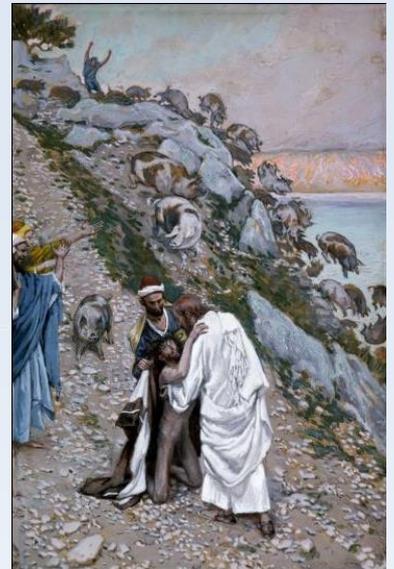
では、この「悪霊」とは何でしょうか。聖書の中には、人間を助ける霊的存在である天使と、悪魔的な破壊者である悪霊とが出てきます。そしてその悪霊は、人間に危害を与えるものであるとされます。肉体的、精神的な病気、そして死は、悪霊の仕業であると考えられていたのです。したがって病人をいやすことは、悪霊を祓うことでもありました。

以前、エミリー・ローズという映画を見ました。そこには悪魔祓い(エクソシズム)をするカトリックの神父の姿が描かれていました。彼は祈り、また清めの聖水を振りかけることによって、悪霊を追い出そうとしていました。実際、カトリック教会には祓魔師(ふつまし・エクソシスト)と呼ばれる役職(位階)があったそうです。しかしそれは、第2バチカン公会議後の教会制度の見直しにあたって廃止されました。(一説には今でも残っていると言われています)。

イエス様は聖書の中で、大勢の「悪霊に取りつかれた人」に出会い、いやしの業をなされました。彼が神さまの霊において悪霊を追い出すことで、神さまの支配は始まっていったといえます。

「わたしたちを誘惑におちいらせず、悪からお救いください」という主の祈りの一節は、わたしたちが悪霊の力から守られ、神さまの支配に入れていただけるようにと祈っているのかもしれない。

今回は「与る」です。お楽しみに。



「湖になだれ込む豚の群れ」
ジェームズ・ティソ (1836-1902)

イエスが、「黙れ。この人から出て行け」とお叱りになると、悪霊はその男を人々の中に投げ倒し、何の傷も負わずに出て行った。

(ルカによる福音書 4章35節)

